

■ 閉会のあいさつ

倪 永 茂（宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター長、国際学部教授）

皆さんこんにちは、閉会の挨拶とさせていただきます。この挨拶を考えるにあたって3つの数字に気づきました。20、5、1です。

まず20というのは、日光が世界遺産に登録されてちょうど20周年なのです。1999年、全盛期、ちょうど今年で20年になります。連日地元の下野新聞の第一面で日光の観光について連載しています。日本人観光客は残念ながらそこまで増えておりませんが、外国人観光客は大幅に増えたことが報道されています。特に日光駅のバスに乗り込む乗客のうち8割位が外国人観光客ということが新聞に書かれています。本プロジェクトもどれくらい外国人観光客の増加に貢献したのか分かりませんが、日光市との連携・地域への貢献は大事ですので、個々での積み重ねで結果的に世界中に日光の素晴らしさをアピールできるといいと思います。また、留学生達が紹介してくれるということを期待しています。

そして、二つ目の数字としては5です。実はこの日光プロジェクトは今年でちょうど5年目になります。日光市との交流は国際学部が設立して以来続けてきましたけども、こうしたかたちでの「日光プロジェクト」は今年で5年目になります。私も今年初めてセンター長という職になって色々なことの大変さが分かりましたけども、5月から毎月1回のペースで重田先生を中心に日光市の篠原さんと星野さん、事務局の鄭さん、小野寺さん、いろんなことを、大きな人脈で貢献して頂きました。企画の検討、目的の再確認、グループワーク、フィールド調査などの状況の判断、アンケート項目の設定、当然留学生は初めて日光が初めてだと思いますけども、一生懸命多くの感性と外国人からの目線でいろんなことについて提案して頂いたと思います。

時間の都合上あまり詳しく振り返りをすることはできませんが、今日のこの最後のシンポジウム、五木田さんの貴重な基調講演、そして留学生たちが提案・問題指摘してくださって、今年のプロジェクトは大成功だと思います。このシンポジウムをもって大きな山場が終わったと思いますが、まだいくつかの仕事が残っています。一つは各グループのポスター作成・展示。初めての試みですが、せっかくグループ発表をして頂いたので、一枚のポスターを作って頂いて、大学に掲示し、他の学生にも宣伝していただきたいと思います。そしてもう一つは報告書の作成です。そしてその報告書、いろいろな方々に総記していただきますが、今年最後の大きなテーマとしては「行政・観光政策がいかに反映しているのか」です。これは毎年の大きなテーマ・問題だと考えています。

そして最後に1という数字ですけども、今年は令和の元年というわけで、新しい時代の幕開けということで、留学生の若い力を借りて是非これからも日光の方々、市との連携、地域貢献や活躍ができるように、頑張っていきたいと思います。